

岡病防第2号
令和2年4月8日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について
病害虫発生予報第1号を下記のとおり発表したの送付します。

令和2年度病害虫発生予報第1号

令和2年4月8日
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	作物名	病害虫名	発生時期	発生量
麦類	赤かび病	やや早	並	タマネギ	べと病	—	やや多
モモ	灰星病 カメムシ類	早 並	並 やや多	イチゴ	ハダニ類	—	並
イチゴ トマト ナス	灰色かび病	—	並				

1 普通作物

(麦 類)

(1) 赤かび病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 並

予報の根拠

ア. 岡山県農林水産総合センター農業研究所の麦作況試験の調査では、麦の生育は平年よりやや早く推移している。

イ. 4月2日発表の1か月予報によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

- ア. 本病の第一次伝染源である子とう殻の形成が盛んになるのは、日平均気温が 13℃以上で降雨の直後である。子とう胞子の飛散が盛んになるのは、日最高気温が 15℃以上でかつ、日最低気温 10℃以上、湿度 80%以上または降雨直後である。この条件からみると岡山市のアメダス気象観測値では、子とう殻形成および子とう胞子飛散好適日は 3月上旬から見られた。
- イ. 赤かび病は出穂期以降の気温が高く、湿度が高いまたは降水量が多いと発病が助長される。
- ウ. 国内産麦類の検査規格では、赤かび病による被害粒が 10,000 粒中 5 粒以上混入すると「規格外」となる。
- エ. 令和元年度植物防疫情報第 10 号（令和 2 年 3 月 17 日発表）「麦類赤かび病の防除の徹底について」参照。

2 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病（花腐れ、芽枯れ、枝病斑）

予報内容

発生時期	早
発生量	並

予報の根拠

- ア. モモの開花時期は、平年より早い。
- イ. 4月2日発表の1か月予報によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) カメムシ類

予報内容

発生時期	並
発生量	やや多

予報の根拠

- ア. 4月2日発表の1か月予報によると、気温はほぼ平年並であり、発生を助長する条件ではない。
- イ. 4月～7月のチャバネアオカメムシ及びクサギカメムシ予察灯飛来数は、前年2月～5月のスギ・ヒノキ花粉飛散数との間に高い正の相関がある。岡山県における昨年2月～5月のスギ・ヒノキ花粉飛散数は、南部でやや多かった。
- ウ. 花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯（赤磐市）への飛来予測数はチャバネアオカメムシが 863.1 頭（平年 385.2 頭）、クサギカメムシが 42.4 頭（平年 40.1 頭）で平年よりやや多いと予測される。

3 野 菜

(1) イチゴ、トマト、ナスの灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 4月2日の巡回調査によると、ナスでは発生を認めず、トマトでは発生圃場率は25.0%で、いずれも平年（ナス：4.0%、トマト：57.3%）より低かったが、イチゴでは25.0%で、平年（15.4%）より高かった。
- イ. 4月2日発表の1か月予報によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) タマネギベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 4月2日の巡回調査によると、発生圃場率は75.0%で平年（27.4%）より高かった。
- イ. 4月2日発表の1か月予報によると、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

- ア. 気温15℃前後で雨が多いと多発生しやすい。
- イ. 令和元年度植物防疫情報第11号（令和2年3月19日発表）参照。

(3) イチゴのハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 4月2日の巡回調査によると、発生圃場率は37.5%で平年（57.1%）並であった。
- イ. 4月2日発表の1か月予報によると、気温は平年並であり、発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

